

ナンバーワンの「つや姫」生産に、地域をあげて取り組む技術集団 ～独自の工程と基準による、トップブランド産地を目指して～

みちのく村山農業協同組合村山営農センターつや姫栽培研究会（村山市）

1 受賞者の概要

県のトップブランド米「つや姫」を核とした生産組織を立上げ、徹底した良食味生産の取り組みを行うことで、稲作に対する意識を高め、地域の水稲生産技術の向上に大きく寄与している。

とりわけ、全ての水田において2回の葉色診断を実施し、それに基づき施肥管理する取り組みは、品質の安定化に結びつくとともに、会員相互の切磋琢磨を促し、稲作の技術や魅力の再確認に繋がり、地域の稲作全体の活性化が図られている。



班編成による葉色診断（枠内：葉色計）

2 活動内容

（1）全水田の葉色診断等による出荷基準の遵守

県全体で作成した「栽培マニュアル」の徹底、特に玄米粗タンパク質含有率の基準値をクリアするための葉色診断を、7月、9月の2回にわたり、全水田において実施することで、安定した品質の確保と、会員相互の技術交流を実施している。

（2）独自基準の設定によるプレミアム「つや姫」の開発

県の出荷基準となっている「玄米粗タンパク質含有率：6.4%以下（水分15%換算）」を超える独自基準（同：5.8%以下）をクリアしたプレミアム「つや姫」（「高鮮度つや姫」）の取り組みを行い、会員の意欲を喚起するとともに、良品質米生産地としての評価を高めている。

（3）カントリーエレベーターと雪むろ施設を活用した高品質の維持

J Aのカントリーエレベーター（籾乾燥貯蔵施設）で一括管理することにより、品質の均質化が図られるとともに、生産者個々の品質向上に対する意識が高まることで、全体の品質は年々高まっている。また、雪むろ施設による低温貯蔵により、長期間、食味を保持することで、実需者から好評を博している。

3 今後の発展方向

高品質米の魅力を更に活かして、輸出等新たな販路開拓を図るため、グローバルGAP認証取得を検討している。また、葉色診断に基づく栽培技術を他品種にも拡大していくことで、稲作地帯としての評価を高め、地域全体の農業振興に寄与する。